

参加費  
無料  
要事前申込

# 新潟の女性の 健康と医療

— 社会全体で支える女性の健康 —

女性の健康は、家庭、職場、地域社会における活躍の土台です。本シンポジウムでは、国際女性デー（3月8日）を記念し、「女性の健康と医療」をテーマに、専門家と行政の立場から現状の課題や展望を共有し、参加者との活発な議論を通して新たな気づきと連携を生み出します。

2026  
3/21.土  
13:00～16:30  
(開場12:30)

会 場

新潟日報メディアシップ  
2階 日報ホール（新潟市中央区万代3-1-1）

対 象

中高生、大学生、大学院生、専門学校生、  
医療福祉関係者、一般市民など

定 員

150名（先着順）

応募方法

Web申込フォームよりお申し込み  
ください。

※応募の際の個人情報は当事業の  
運営にのみ使用いたします。



申込締切

2026年3月18日（水）

（定員になり次第、締め切らせていただきます）

プログラム

基調講演①「女性の健康をどう守るか — フレイルを中心に」（40分）

講師／大内 尉義 氏（東京大学名誉教授、虎の門病院名誉院長）

質疑応答（10分）

基調講演②「ジェンダーとケア役割 — 在宅医療・介護の経験から」（40分）

講師／野島 晶子 氏（新潟市副市長）

質疑応答（10分）

一般討論（60分） テーマ① 現在の制度上の問題点は？

テーマ② 女性自身の健康意識や周囲の理解について

テーマ③ 社会の受け止めと将来への期待

司会・進行／西村 宏子 氏（米国テネシー大学医学部名誉教授）



主催／“女性の活躍”実行委員会  
新潟日報社

西村宏子（代表）、江端妙子、田丸信子、矢尾板永信、山口賢一、森沢真理、  
高塚先子、山崎まさ、山崎陽子、金子朋子

問い合わせ／新潟日報社 総合プロデュース室「女性の活躍シンポジウム」係  
〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1  
Tel:025-385-7473（土日祝日を除く10:00～17:00） Mail:sopro@niigata-nippo.co.jp



### 大内 尉義 (おおうち・やすよし) 氏

東京大学名誉教授、虎の門病院名誉院長

1973年に東京大学医学部医学科を卒業後、84年に同大学第三内科の助手としてキャリアをスタート。翌85年にはアメリカ・テネシー大学医学部の生理学教室に留学し、国際的な研究経験を積んだ。86年に東京大学医学部老年病学教室の講師に就任。以降、老年医学の発展に尽力し、95年には東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座教授に就任。その後、2006年に東京大学医学部附属病院の副院長を歴任した。13年に虎の門病院院長に就任。20年からは同病院の顧問、25年より、現職に就いている。長年にわたる高齢者医療への貢献を通じて、臨床・教育・研究の各分野で高く評価されている。



### 野島 晶子 (のじま・しょうこ) 氏

新潟市副市長

1961年新潟市生まれ。新潟大学工学部を卒業後、新潟市役所に入庁。男女共同参画、地域政策、広報といった多様な分野で経験を積み、2012年には男女共同参画課長として、ジェンダー平等の推進に取り組む。19年からは、保健衛生部長として、医療・介護の連携体制の構築や、地域に根ざした保健医療施策を推進。女性のライフステージに応じた健康支援や、妊娠・出産・更年期を含む包括的な医療サービスの充実に力を注いだほか、新型コロナウイルス対応に尽力した。22年4月より現職。誰もが心身ともに健やかに生きることのできるまちづくりに、これまで培った知見を活かし、取り組んでいる。



### 西村 宏子 (にしむら・ひろこ) 氏

米国テネシー大学医学部名誉教授

1961年、国立東京医科歯科大学医学部を卒業、博士号取得後、ニューヨークのコロンビア大学医学部薬理教室、1973年テネシー大学、医学部生理学教室に就職し、35年間、研究と医学教育およびpublic serviceに従事貢献した。腎臓、内分泌学、高血圧、心血管系の比較生理学を専攻し、帰国後は新潟大学医学部腎研究所、新潟医療福祉大学特任教授として、若い世代に基礎研究の方法、英語による発表などを指導。NIHのグラント審査員、米国生理学誌の編集員、高血圧学会の役員などをとおし国際的な貢献をした。